



ぷっくりハート推進事業 伊野南中公開授業

10月28日(木)に、伊野南中学校の公開授業と学校版寺子屋を行いました。議員や他の学校から17名の参加者がありました。各学年で授業を公開しました。



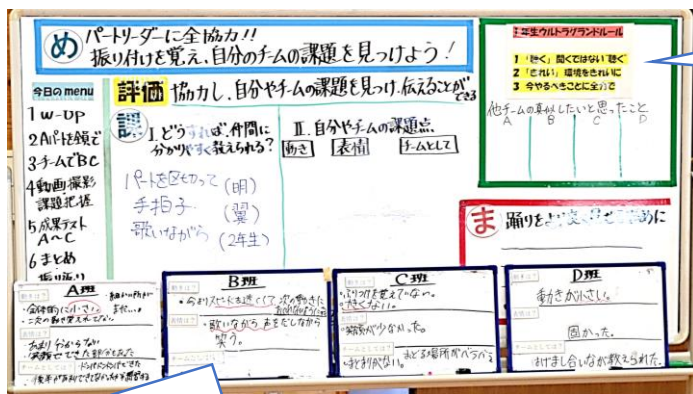
公開授業 第1学年 保健体育科「現代的なリズムのダンス」

まず、導入時には授業者の山本展丈教諭が「ダンスは明るく楽しく」と生徒のモデルとなってウォーミングアップのダンスをすることで、楽しい雰囲気を作っていました。

次に、クラス全体で本時の課題である振付を確認し、グループで協力してその振付を覚えていくという本時のめあてを提示しました。その際、授業者は「わからないことを聞くのも協力です」と、望ましい行動を価値づけてからグループでの練習に移りました。

ある程度練習をした後、グループごとにタブレットでダンス動画を撮影し「①動き②表情③チームとしてのまとまり」の三項目に注目して課題を見つけました。グループでは「表情が暗いから歌いながら踊ればよいと思う」のように改善点を話し合い、意見をホワイトボードに書き、交流しました。

最後に、生徒同士でダンスを見合い、良いところや取り入れたいこと等のプラス評価をしました。



南中で取り組んでいる
「グランドルール」



班で交流した意見をホワイトボードで交流

授業の最後には、菊池先生より生徒に励ましの言葉がありました。

山本先生より



ダンスに苦手意識がある生徒たちに、自分を思い切り表現してもらいたいと授業を組み立てました。生徒はチームで協力して何かをすることは苦手なので、クラスで何かをする時はみんなです、ということ意識しています。菊池学園の取組としては、価値語写真を掲示したり、グランドルールを徹底したりしています。

- A) メリハリのある授業で、環境づくりが良かった。先生が「分からないことを聞くのも協力です」と生徒に伝えたのが良かった。他のグループにアドバイスをする場面があったが、出てきた意見から「この中で一番私たちに必要なのはどれ?」と教師が介入することもある必要だ。
- B) 生徒が意欲的であり、辞書で自主的に調べていた。「こういったことがより良いか」を選ぶことで主体的な学びになるのではないかと。授業の流れを示したり、スペルなどを調べたりすることにICTを活用するのも良いのではないかと。
- C) 班活動中心だったが、動くきっかけを作る必要がある。前の単元とのつながりを意識しているのが良かった。自分の考えを持たせることが大切だ。

2学年 英語科



3学年 国語科



学校版寺子屋「学び合わせるための仕掛けや工夫について」

①「聞き方」の指導

教室にありがたい言葉をたくさん貼っても、それがただの張り紙になっていませんか?聞き方ひとつを取っても、「温かい聞き方」「楽しい聞き方」「相手を喜ばす聞き方」等、様々な聞き方があります。

◇温かい聞き方とは?

- ・うなずき(反応)
- ・笑顔(表情)
- ・最後まで聞く 等

◇人を喜ばす聞き方とは?

- ・大きな拍手
- ・質問する
- ・全て受容 等

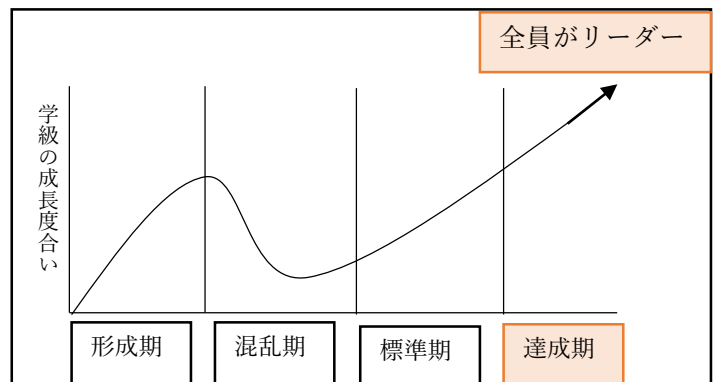


このように、色々な視点を教師が持っていなければ、「静かに聞きなさい」「発表者の方を向いて聞きなさい」のようなしつけの指導になってしまいます。

「聞く力」のゴールは「健全な批判力」です。寛容の気持ちや、自分と違う意見への尊重が、どの授業でも必要です。

②討論が成立する学級へ

挙手⇒指名、列指名、意図的指名にしても、先生が生徒を指名するという構造は変わりません。これから先は、先生が指名しないで生徒が発言していくことを目指しましょう。達成期に到達した場合には、指名なしに討論が成立すると思います。



おわりに

タックマンモデル

公開授業日は、生徒の皆さんが参観者に対して明るく挨拶をしてくださいました。伊野南中では、「グラドルール」を徹底し、安心して授業ができる環境づくりに力を入れていました。伊野南中の皆様、ありがとうございました。